



# 青森縣産鳥類目錄

和田 干 藏

青森縣産鳥類目錄 (紙面の都合上學名を用ゐず)

青森縣は我本州の最北端に位し極南北緯四〇度二一分より極北北緯四一度三一分、極西東徑一三九度五四分より極東東徑一四一度三分に跨る海陸兩界を包含せる所にして、陸界は山嶽、原野、湖沼に富み、水界は三面海を以て抱擁せられ、且附近を流るゝ暖流及び寒流あるを以て氣候寒冷なりと雖も諸種の生物の蕃息に適し其等の分布極めて豊富なり。今青森縣に産する鳥類の概要を示して讀者の參考に資せむとす。

科名	和名	津輕地方	南部地方	備考
阿比科	アビ	センスガモ	センスガモ	カモ類と誤認して狩獵せらるること多し。
	ハシシロアビ	センスガモ	センスガモ	同上
	オホハム	センスガモ、七里	センスガモ	同上
鶯科	カイツブリ	ドンクグリ、 フミ、ムグリ、イミ	ケヤツブリ、ムグリ	當地にて盛に繁殖す。
	カムムリカイツブリ	ドンクグリ	ムグリ	餘り多からず。
	アカエリカイツブリ	ドンクグリ	ムグリ	同上
	ハジロカイツブリ	ドンクグリ、マメ	ムグリ	同上
	ミミカイツブリ	ドンクグリ、ムグリ	カイツブリ	同上



ヨシガモ	オシガモ、オシドリ、カモ	カモ	同 上
シマアジ	カモ	カモ	同 上
コガモ	ドロガモ、タカブタカベ	カモ、タカブ	早秋出現冬季見えず、春季再出現して營巢するものあり。
トモヘガモ	カモ	カモ	南部方面に多し。
チナガカモ	オナガ、カモ	オナガ、カモ	可成多く早秋出現す。
ハシビロガモ	カモ	カモ	南部方面に多し。
キンクロハジロ	ハジロ、カモ	ハジロ	各地に多し。
スズガモ	カモ	カモ	少数に出現す。
ホシハジロ	ハジロ	ハジロ	可成群を成す。
メジロガモ	カモ	カモ	少数なり。(編輯者記す―次種の誤りなるべし)
アカハジロ	ハジロ	ハジロ	可成多し。
ホホジロガモ	カモ	カモ	少数なり。
コホリガモ	アチナ、ヘイケダナシ	ゴンゲン、ゲンゲ	陸奥灣内に極めて濃厚に分布し冬季狩獵家の好獲物なり、肉味差程佳ならず。
シノリガモ	カモ	カモ	餘り多からず。
ビロウドキンクロ	キンクロ、カモ	カモ、キンクロ	可成多く狩獵し難きものなり。
クロガモ	ウルシガモ、カラス、クロガモ	クロガモ	可成多く分布し強健にして仲々射殺に困難なり
カハアイサ	アイサ	アイサ	左程多く分布せず。
ウミアイサ	アイサ	アイサ	多く分布し海岸に寄る習性あり。
ミコアイサ	アイサ	アイサ	仲々見當らず。
マガシ	ガシ、カリ	ガシ	春秋の間に多く捕獲せらる。
コカリガネ	ガシ	ガシ	同 上
ヒシクヒ	クテウ	クロハクテウ	同 上



[illegible]

朝鮮のカウライキジに極めて類似す。(雄の變種  
キジに比して分布極めて少し。  
此種にて純白なるを今年入手せり。  
原野多き諸所にて旺に繁殖す。  
極めて稀なり。  
極めて多く分布す。  
極めて多く分布し、水田・稻株間に營巢するが  
故に小兒等のため卵を捕はるること多し。  
可成多く分布し、青森附近にては浦町驛の池  
沼内に營巢す。  
十月下旬乃至十一月月上旬上北郡小河原沼には  
無慮一千以上の大群を成す。實に壯觀を極む。  
早春より來り當地にて蕃殖するものあり(？)。  
可成多し。  
春秋二期に出現す。  
當地にて蕃殖す。  
少し。  
同 上  
同 上  
同 上  
餘り多かぬす。  
大正九年の秋期には只五羽位より出現せず。  
餘り多からず、味極めて良好なり。  
可成多し。

[illegible]

五



杜鵑科	佛法僧科	翡翠科	梟鴞科	怪鷗科	雨燕科
ホトトギス クロクコウ	フツボウソウ ツツドリ、ド	アカセウビン カハセミ	ヤマセミ キノハヅク オホキノハヅク アチバヅク エゾフクロウ トラフヅク コミミヅク	ヨダカ マツバ、アマツバメ	アマツバメ
メツケトリ クロクコウ	カヒフキドリ、ド	ナンバンテウ、テルナ、ケカツドリ カジカトリ、クサイドリ、チゴクトリ、ハルビノハヅク カナコトリ、チゴクトリ、 カノコトリ、チゴクトリ	モホ ミニヅク、モホ ミニヅク、モホ ミニヅク、モホ ミニヅク、モホ モホ ミミヅク、モホ	ヨダカ マツバ、アマツバメ	アマツバメ
ホトトギス クロクコウ	ブッポードリ	ナンパウトウ カジカトリ、カハセミ	モホ モホ モホ モホ モホ フクロウ、ミミツク	ヨダカ アマツバメ	アマツバメ





科

科

トラツグミ	アカハラ	マミチヤジナイ	シロハラ	マミジロ	クロツグミ	イソヒヨドリ	ツグミ	コマドリ	ノゴマ	コル	ジャウビタキ	ノビタキ	カヤクグリ	イワヒバリ	ヤマヒバリ	シマセンニウ	オホヨシキリ	コヨシキリ	ゼツカ	ヤブサメ	ウグヒス
-------	------	---------	------	------	-------	--------	-----	------	-----	----	--------	------	-------	-------	-------	--------	--------	-------	-----	------	------

トラツゴ	チヤツゴ	ツゴ	ツゴ	マユツゴ	ツゴ、クロツゴ	イソコツケイ	テウマン	コマ	ノドアカ、ヒノマル	コル	ヒタキ	ウグヒス					チヨチヨズ	チヨチヨズ	チヨチヨズ	チヨチヨズ	
------	------	----	----	------	---------	--------	------	----	-----------	----	-----	------	--	--	--	--	-------	-------	-------	-------	--

稀に出現す。  
 可成多く諸所にて晩秋迄繁殖す。  
 少数なり。  
 少数なり。  
 同 上  
 極めて多く肉を肺病患者に喰はしむる迷信あり、此卵の味は鳥卵中の最なりと云ふべし。  
 海濱地方には冬季多く産す。  
 大群團を見ることがあり。  
 當地にては今別方面の櫛林中にて營巢す。  
 陰性の鳥にして春季捕はるゝこと尠からず。  
 秋季は屋内に入り來りて捕はるゝものあり。  
 餘り多からず。  
 可成多し。  
 西部方面に多し。  
 大正十年八月八甲田山海拔五、〇〇〇尺の高處に巢及四卵を發見す。  
 餘り多からず。  
 少数なり。  
 頗る多く繁殖季には晝夜の別なく囀鳴す。  
 可成多し。  
 少数なり。  
 同 上  
 頗る多し。

ツ	ミ	カ
	ソ	ハ
バ	サ	ガ
	ザ	ラ
メ	イ	ス

イ  
ワ  
ツ  
バ  
メ

連雀科	山椒喰科
-----	------

鴟  
科

四 十 雀 科	五 十 雀 科
------------------	------------------

エ コ ヒ ヤ シ ゴ ア チ オ  
マ ジ ジ カ ゴ ホ  
ナ ガ カ ウ ウ モ モ モ  
ガ カ カ カ カ ズ ズ ズ  
カ ラ ラ ラ ラ ラ ズ ズ ズ

ツ  
バ  
メ

ダケノツバメ

チリチリン  
レンジャクブキ  
レンジャクブキ  
モズタカ、

モズタカ	モズタカ
モズタカ	モズタカ
モズタカ	モズタカ

ヤマガラ  
コガラ  
ヒガラ  
ズリ、モホラ

ツバグラ

ツバクラ

年  
 月  
 日

モズタカ

ス  
ロ  
リ  
ジ  
ロ  
ー

秋季最も多し。

鶺鴒科	椋鳥科	繡眼兒科	木走科	雀科					
ハシブトガラス ハシボソガラス ミヤマガラス コクマルガラス ホシガラス カケス ミヤマカケス チナガ ムクドリ コムクドリ メジロ キバシリ シメ イカル リクゼンイカル(コイカル) イスカ シロハライスカ ナキイスカ オホマシコ ベニマシコ ハギマシコ	クチブト、カラス クチボソ、カラス ヤマガラス、ダゲカラス ブチカラス シロカラス、ブチカラス カゲス 松前カケス オナガ サクラドリ サクラ、メジロ メジロ	三光 三光 イスカ イスカ ケラツツキ、イスカ マシコ マシコ マシコ マシコ	三光 三光 イスカ イスカ ハジロ マシコ マシコ マシコ マシコ	三光 三光 イスカ イスカ ハジロ マシコ マシコ マシコ マシコ					

頗る多し。冬季と雖も水浴す。  
 同 上  
 餘り多からず。  
 稀なり。  
 少數なり。  
 頗る多し。  
 八甲山麓にて觀察することを得  
 可成多し。  
 渡島中最も多く分布し七月上旬頃より十月頃迄  
 に數百の群團をなして飛翔し實に壯觀を極む。  
 前者より遙少數なり。  
 極めて多く分布す。  
 少數なり。  
 餘り多からず、樹芽を害す。  
 頗る多く捕へて養ふ者多し。  
 少數なり。  
 當地にて蕃殖す、昨年六月十二日上北郡野邊  
 地附近にて十數羽の群を觀たり。  
 少數なり。  
 春季イスカの群に混來す。上北郡三澤附近殊  
 に多し。  
 南部方面には多し。  
 南部方面に多く飼養せらる。  
 少數なれども飼養する者あり。

ア ト リ

マ ヒ ワ

ベ ニ ヒ ワ

シロハラベニヒワ(?)

カハラヒワ

ベニバラウソ

ウ ソ

(所謂アカウソ)

ス ズ メ

ニウナイスズメ

ホ ホ ア カ

ホ ホ シ ロ

コ ホ ホ ア カ

ミヤマホホシロ

ア チ シ

ク ロ シ

カ シ ラ ダ カ

ユ ジ ユ リ ン

オホジユリン

ノ シ コ

ツメナガホホシロ

アハドリ、ソノヘ、

ヒワ

オタネヒワ、シトド

ソウテル、アキラ、

ブンマハシ、キリ

マハシ

ハンテル、ウソコ

スズメ

叭雀、サクラスズ

メ、ダリスズメ

四十九日の餅搗子

ヤマスズメ、ウヅ

ラヒバリ

シトド、四十九日

の餅搗子

シトド、ヒワ

マシヘ、メ

ヒワ

クロロ、シトド、

カラ、イ

ウソ

ウソ

ウソ

スズメ

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

アチジ、シトド

クロスズメ

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

大群を成して出現す。

毛色により柳ヒワ、青ヒワ、白ヒワ、クロヒワ、動作により玉ヒワ、羽フリヒワ等の名を附す。

大群を成すことあり。

餘り多からず。

頗る多く農家の被る害多大なるものなり。

極めて稀に出現するのみ。

喉部の羽毛白色なるあり。

頗る多し。

農家の害を被ること大なり。

餘り多からず被害の度極少なり。

各所に多く分布す。

同 上

極めて少数なり。

同 上

極めて少数なり。

同 上

稍多く分布す。

頗る少数なり。

秋季大群を見ることあり。

少数なり。

春季五、六十の大群を見ることあり。

諸山にて蕃殖す。

極めて少数なり。

上表により青森縣には約三百六十種の鳥類産することを知りたれども、未だ調査に漏れたるものも尠からざるを以て他日其缺を補ふの日あるを信ず。由來青森縣は動物地理學上總北區舊北亞區中支那地方の北方に位置し、津輕海峽を以て舊北亞區中なる歐亞地方と相界せり、而して上記兩地方の分界線たる津輕海峽假想線はブラキストン線と稱せられ、兩區の鳥類分布に著しき差異ありと雖も、鳥類の生存上該線附近に漂ふものも尠しとせず、又寒流暖流の分布上是等に適應して棲息するものも稀ならず、是青森縣鳥界に稍特色を發揮する所以なり。されど青森縣産特有鳥とも稱し得べきものを未だ認めざるは遺憾とする所なり。此缺は他日を期して探險を行ひ是非共學界に未知なる鳥類の數點を發見せんと欲す。(完)